

3. 流域の社会状況

3.1 土地利用

渡川水系を構成する市町村の土地利用面積は、全体の約 95%を山林が占め、水田や畑地等の耕作地が約 4%であり、宅地はわずか約 1%にしかすぎない。

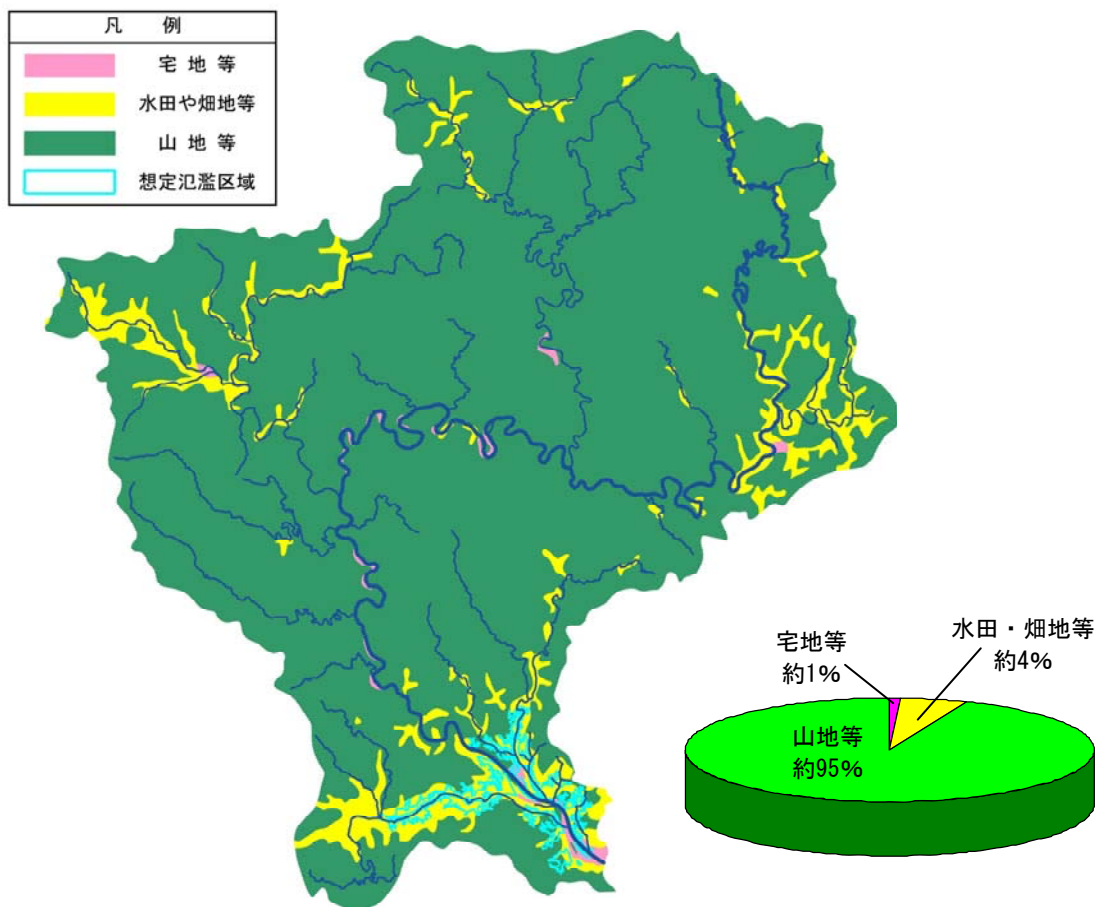


図 3.1.1 四万十川流域の土地利用図と土地利用割合

3.2 人 口

渡川水系を構成する市町村は、3市7町1村（平成17年現在）であり、平成12年基準の河川現況調査における流域内の人口は約9.7万人である。

流域関係市町村全体では人口は減少傾向にあるが、これを上流、中流、下流別に見てみると、上流部の人口は漸減傾向にあり、中流部の人口は一貫して減少傾向にある。一方、下流部の人口については、概ね横ばい状態となっている。

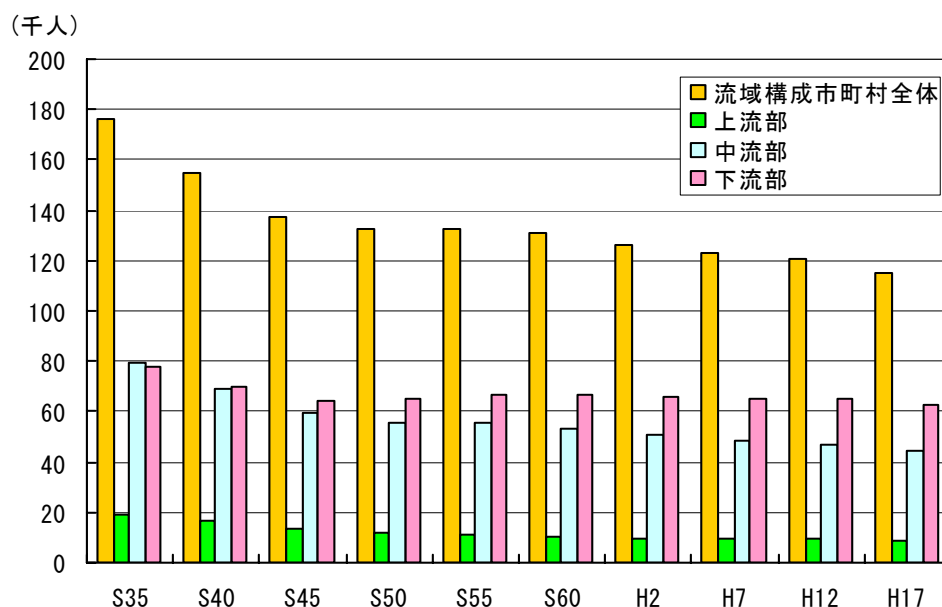


図 3.2.1 流域を構成する市町村の人口の推移(国勢調査による)

表 3.2.1 流域を構成する市町村

区 分	県	区分別の市町村
上流部	高知県	梼原町、津野町（旧東津野村）、中土佐町（旧大野見村）
中流部	愛媛県	鬼北町（旧広見町・旧日吉村）、松野町、宇和島市（旧三間町）
	高知県	四万十町（旧窪川町、旧十和村、旧大正町）
下流部	高知県	四万十市（旧西土佐村・旧中村市）、宿毛市、黒潮町、三原村

3.3 産 業

流域の産業構造について、流域を構成する市町村の産業別就業者数の構成比でみると、第1次産業(農業、林業、水産業)は18.4%、第2次産業(製造業等)は25.2%、第3次産業(卸売・小売業、サービス業等)は56.4%となっており、第3次産業の就業者の割合は半数以上を占めている。

一方、これを上流部、中流部、下流部代表的な市町村について見ると、上流部の中土佐町(旧大野見村)では第1次産業就業者の占める割合が約4割であり最も高く、中流部の四万十町(旧窪川町)、下流部の四万十市(旧中村市)では第3次産業就業者の占める割合が最も高くなっており、さらに中流部の四万十町(旧窪川町)よりも下流部の四万十市(旧中村市)の方が割合は高く、第3次産業就業者の占める割合は約7割を占めている。

表 3.3.1 流域構成市町村の就業者の産業構成

項 目	全 体 (流域構成市町村)		上 流 中土佐町(旧大野見村)		中 流 四万十町(旧窪川町)		下 流 四万十市(旧中村市)	
	就業者数 (人)	割合 (%)	就業者数 (人)	割合 (%)	就業者数 (人)	割合 (%)	就業者数 (人)	割合 (%)
第1次産業	10,915	18.4	340	37.6	2,082	27.8	1,511	8.8
第2次産業	14,942	25.2	248	27.4	1,655	22.1	3,603	21.0
第3次産業	33,387	56.4	316	35.0	3,743	50.1	12,025	70.2

出典：平成16年度 高知県統計年鑑(基準年：平成15年)

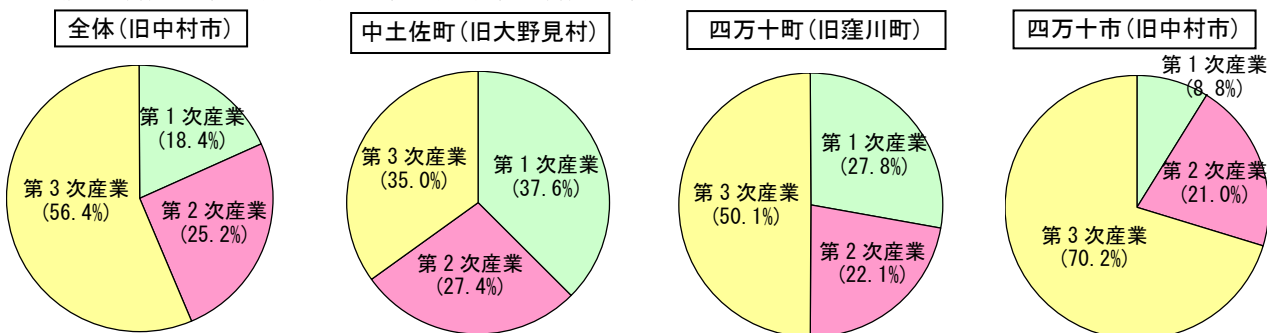
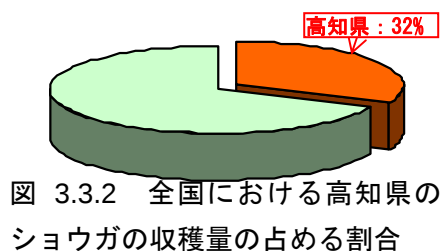
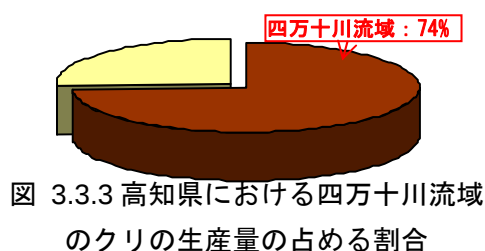


図 3.3.1 流域構成市町村、及び上流、中流、下流の主な市町村の産業別就業者割合

一方、高知県は平成16年時点で全国のショウガの収穫量のうち約1/3占める全国一のショウガの生産地であり、上流部は県内有数のショウガの産地となっている。また、中流部ではクリの栽培が盛んで、高知県における収穫量の約74%を占めている。さらに、海水と淡水が混じる汽水域で採れる天然のスジアオノリは全国一の生産量を誇る。



出典：平成17年農林水産統計(基準年：平成16年)



出典：平成17年高知県統計書(基準年：平成16年)



3.4 交 通

渡川水系の交通については、沿岸部の主要市街地を JR 土讃線及び第 3 セクターの土佐くろしお鉄道が結び、内陸部においては JR 予土線が四万十町窪川と愛媛県南予地方の中心都市である宇和島市とを結んでいる。

一方、道路については、四万十町から四万十市と宿毛市を經由して愛媛県南宇和郡愛南町を結ぶ国道 56 号の他、国道 321 号、441 号、381 号、197 号、439 号、440 号等が主要幹線となっている。また、現在、高規格道路である中村・宿毛道路が整備中である。



図 3.4.1 渡川水系の交通網